佐保田の丘

奈良教育大学附属中学校通信第三号（通算二十二号）
二〇一三（平成二十五）年一月十六日発行

「今年こそ」を推進する、巳と己

学校長　松川利広

年の初めに際して多くの人々は、昨年までの自分の生き方を省察し、「今年こそ…」と、それぞれの思いや願いを言葉にし、その成就に向けて士気を鼓舞します。この「今年こそ」の「こそ」には、昨年や一昨年とは異なる、「今年」に期する並々ならぬ決意が表れています。たとえそれが、毎年同じであったとしても、新たに、祈り、願うことが大切であり、その行為は誠に人間的であると思います。

さて、「こそ」といえば、古文の学習で、係助詞「こそ」があると文末を「已然形」で結ぶ、係り結びの法則（例えば、冬こそまされ）を思い出された方もおられると思います。また、已然形の「已」を習うとき、「已」によく似た字に「巳」「己」があり、それらの覚え方として「キ・コの声おのれ・つちのと下につき、イ・すでには中に、シ・みは皆つく」と教わったのではないでしょうか。ここでは、三つの漢字の形態的関係について着目してみることにします。

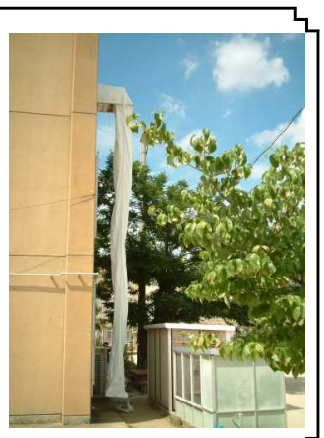
「已然形」の「已」の第三画を第一画につける（皆につく＝已プラス1）と、平成二五年（二〇一三）の干支「巳」になります。蛇は豊穣の象徴として、また家に福禄をもたらす、神の使いとして信仰の対象になり、多くの神社・仏閣で祀られています。どの子にも、どの子の家庭にも福禄がもたらされることを願わずにはいられません。また、蛇は脱皮して成長していきます。古い上着（＝自分）を脱ぎ、新しい上着（＝自分）に身を包み、今年（巳年）を、地を這うように着実に進んで参りましょう。それもその進み方は、直線的ではなく、無駄、寄り道、遊びの要素を大切にした、蛇行的であった方が、実りの多い人生になると思います。

「已然形」の「已」の第三画を第二画のはじめにつける（下につく＝已マイナス1）と、「自己（ジコ）」「克己（コッキ）」「知己（チキ）」の「己」になります。それぞれの「今年こそ」を実現するには、己（おのれ）との戦いおいて、己に勝つ（克己）ことが求められます。そうすれば、自分のことをよく理解してくれる知己（真の友人、仲間）を得ることができるでしょう。

さあ、今年こそ、已プラス1＝巳（み）の動的活力と、已マイナス1＝己（おのれ）の静的活力によるハイブリッドエンジンで、山を越え、谷を越え、自らを高みへと導こうではありませんか。

大会議室に避難シューターを設置します

大学と教育後援会（奨学寄附金）のご支援により、大会議室（管理棟３Ｆ・図書室の奥）の避難用シューターを、近々設置できることとなりました。避難器具の設置は、生徒の安全確保という観点から、中学校だけでなく育桜会や後援会からも大学にお願いしてきた経緯があり、今回実現できる運びとなりましたことは、そうした多くの皆様のご助力によるものと感謝しています。本当にありがとうございました。



「本当の支援とは」

今年度の11日、全校生徒が参加して『平和のつどい』を開催しました。講演には、孤児の支援に取り組んでいる長年、カンボジアで孤児たちの学校作りに奔走してきた、栗本英世氏にお出でいただきました。栗本さんは個人レベルでこの様な形で継続して被災地へ支援を維持していくことが大切であり、その行為は誠に尊いものがあると思いました。また、この様な形で、